

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	大原真生 (おおはらまさき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 6 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	Environment and Design Research Association
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	大原真生
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	The importance of older adults' network of relationships and their sense of roles in community
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>高齢化社会において高齢者の主体的な地域活動への参加を促進することは彼ら自身の生活をより良いものにするだけでなく、同じ地域に居住する他の世代の人々にとっても価値がある。近年は COVID-19 の影響もあり、人同士のつながりが希薄化している。これに伴い、高齢者の主体的な地域活動を支えるような地方自治体やコミュニティが有する支援機能が失われ、居住している場所から外に出ない高齢者が増えた。こうした背景により、社会から隔絶された高齢者はますます増加の一途を辿っている。</p> <p>このような課題に対して、高齢者の主体性を助けるような機能を持つコミュニティのあり方や、施設および住居のあり方といった環境の視点から様々な研究が行われてきた。しかし、地域に住まう高齢者の活動や生活は多種多様であり、その全容を掴み切るに至れてはいない。そのため、個々人に可能な活動レベルを把握した上でどのように適切なサポートを行えば良いかを論じるにあたり、高齢者の生活実態および彼らが持つ関係性のネットワークについて把握することは必要不可欠である。</p> <p>そこで本研究では、高齢者の地域での生活実態と彼らが持つ関係性のネットワークについて明らかにするため、日本の特定の地域に住まう高齢者を対象に半構造化面接を行った。また、面接の分析結果を用いて地域に存在する福祉施設や公共施設、事業所など、高齢者が定期的な活動の場として活用している地域資源のマッピングを行った。分析を通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住まう高齢者同士が築いている関係性のネットワークについて、高齢者によって複数のコミュニティを有する場合とそうでない場合があること 2. コミュニティによって規定される役割意識が彼らの地域活動への積極性に影響していたこと 3. 高齢者がこうした地域活動で築く関係性とは別に、居住地の近接性に依存した関係性も存在すること <p>が明らかとなった。以上の結果から、高齢者の孤立状態を自治体や福祉事業者が把握するためにはこのような関係性を基点とした高齢者の築く多様な地域生活や、人間関係の類型を把握していく必要があるという考察を行った。</p>	

※無断転載禁止